

～^{おほ}多くの^{なかつ}仲間^{いま}とともに^か現在^{みらい}を変え^{そうぞう}未来を創造するために～

ねん がつ
2020年3月

KSKQ ファースト・ラン NO.113



箕面百景（箕面滝道）
箕面のおひやつけい
りょうあんじ
（箕面滝道）

【お詫び及お知らせ】

当法人の不祥事（着服事案）についての報道が1月22日の新聞及びTVニュースにてなされました。

この件は当該利用者のみならずこれまで多くの支援と協力を仰いできた会員及び市民関係者の皆様の信頼と期待を大きく裏切るものであり、弁解の余地はないと考えております。改めて深くお詫び致します。現在法人内で事案の解明、被害の早期弁済、具体的かつ効果的な再発防止策について検討を重ねていくところであります。

次号においてはこの件に関する特集を組み、当法人としての説明責任を果たしたいと考えております。

目次

■ 特集	グループホーム研修に参加して	2
■ イベント報告		5
■ カエルのうた		6
■ 事業紹介・会員募集		7

とくしゅう 特集 グループホーム研修に参加して



さくねん がつこのか とお か とうきょう かいさい にほん
昨年の11月9日・10日に東京で開催された日本グループホ
ム学会全国大会に参加しました。

こんかい たいかい ひ とり く ささ
今回の大会は「一人ひとりの暮らしを支えるために」がテーマ
で、2日間を通して「はっ」と思った事が「Nothing About Us
Without Us」(私たち抜きに、私たちのことを決めないで)と言

うフレーズです。私 が日々の障がいを持つ人と接する場面でこのフレーズを顧みる2日間でした。

い か かんたん ないようしょうかい かんそう か
以下は簡単な内容紹介と感想を書くことにします。

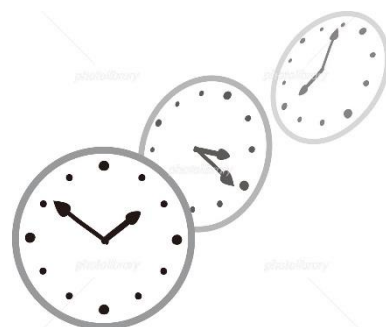
ねん がつ にほん ひじゅん こくれん しょうがいしゃ けんりじょうやく だい じょう じ こ けつてい ほしょう じりつ
2014年1月に日本が批准した国連の障害者権利条約の第19条には、自己決定を保障する自立・
自律生活や地域におけるインクルージョンをめざすべき事が書かれています。

じりつせいかつ ちい き じゅうきょ す ひ とり す だれ す せいかつ
自立生活は、どこに・どのような住居に住むのか、一人で住むのか、誰と住むのか、どのように生活す
るのか、誰に支援してもらうのか、どのように支援してもらうのかについて選び、決める事が含まれます。

わたしたち しえん かんけい しょう も ひと えら き かんきょう
私達の支援および関係している障がいを持つ人は選び・決める環境にあるのでしょうか？

せいど へいせいがんねん はじ やく ねん とうしょ ちてきしょう ひと たいしょう りょう
グループホーム制度は平成元年に始まり約31年。当初は知的障がいをもつ人を対象にした利用から
はじまりました。「生活の場を施設から地域へ」の考えで、地域の住宅において数人の障がいを持つ人が
いてい けいざいてきふたん お きょうどう せいかつ けいたい どうきょまた きんりん きょじゅう せわにん にちじょうてき
一定の経済的負担を負って共同で生活する形態であり、同居又は近隣に居住する世話人により日常的
せいかつえんじょ う せいかつ じゅうきょ さっこん にゅうきょしゃ すうにん たすう たてもの
生活援助を受け、生活する住居です。しかしながら、昨今では入居者は数人から多数に、建物もアパー
ト・一戸建てから大規模な建物へと変化しています。結果、入居者が多数になり、入居者の同意が得られ
ないまま必要以上の決まりや規則があるグループホームもあります。

じぶん せいかつ しょくじ なんじ なんじ あいだ ふろ じゅんばん ま
自分の生活で「食事は何時～何時の間です。風呂は順番待ちまたは
たにん いっしょ はい よる がいしゅつきんし しょうとう なんじ みな
他人と一緒にいる。夜は外出禁止。消灯は何時です。」皆さんはどうです
か？このような生活。当初の「生活の場を施設から地域へ」の考えが、



「生活の場を施設から地域の施設へ」になっていませんか。

このように、入居者が多数になると「個別支援」をどのように実現していくのでしょうか？現実には、

困難な課題と思われます。個別支援の理想は1対1の体制が適切と考えられます。そして、より支援

区分の高い入居者にねばなるほど、1対1の体制が必要となります。グループホームで生活をして、

居宅介護(重度訪問介護)等を利用してヘルパーを派遣してもらい、1対1の個別支援を実現する方法も

あります。グループホームは入居者個々が必要とする支援(サービス)を受けて、その人自身が選び・決

める生活をする住居である事を再認識しました。

大会の中で、入居者だけによるシンポジウム「今のグループホームについて」がありました。その中の

率直な意見や提案・感想を紹介します。

・小遣いの金額や掃除の内容・お菓子の量を職員が決めるのはおかしい。

・もっと思いやりをもってほしい。

・周辺に買い物ができる店がない。

・日中活動先まで遠い。

・日課が貼られている。

・職員に精神的にしばられている感じがする。

・職員の言う通りに動く感じ。

・勝手に部屋に入らないで。

・グループホームに来てから入院していない。

・生活リズムが整っている。

・世話人が夜もずっといてくれて安心。

・入居者同士仲良くして楽しい。

・趣味の太鼓を練習して舞台にも立てるようになった。

・巡回型のグループホームに引っ越して友達と二人暮らしを始めて、現在はガイ

ドヘルパーの資格を取得中です。

たくさんのお話を聞かせていただきました。



入居者だけによるシンポジウムは本音が言える方の意見で、本音が言えないまたは聞けない入居者の意見はどのように聞くのか？確認するのか？と思いました。

ここで厚生労働省が示している意思決定支援ガイドラインを紹介します。

意思決定支援とは、自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して

自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう

支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が

困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援及び

仕組みをいう。以上が定義ですが、最後の手段以下の文言はサービス等利用計画作成事業の相談支援

専門員及び各事業のサービス提供責任者、サービス管理責任者等の役割は重要で、職員として本人の

最善の利益を検討できるように社会生活を送るうえでの知識や経験、制度の知識や活用法等、日頃から

自己を高める必要性を感じました。大会では、意思決定支援をチームで行っている津久井やまゆり園の

活動紹介がありました。

意思決定支援によりグループホームに入居したいと思う強度行動障がい者の意思は確認できたが、

実際の入居となると事業者はどのような方法で支援をすればよいか？本人は環境が変わる事での不安

や生活リズムの確立に時間がかかるのでは？等の問題があります。

福岡では、強度行動障がい者が実家又は施設からグループホームへと直接移行するのではなく、中間

に集中支援として約3ヶ月間24時間職員がマンツーマンで集中的に対応して、障がいの特性の理解、

行動の意味の理解、問題行動の軽減、障がいの特性の支援のあり方を検討、実践した上で、グループホ

ームへの移行や他のサービス利用へと繋げている事業紹介がありました。強度行動障がい者が入居で

きるグループホームが少ない中で、先進的な取り組みだと感心しました。

盛りだくさんな内容の2日間でしたが、私自身が日々の障がいを持つ人と接する場面でもう一度、心に

刻みます「Nothing About Us Without Us」(私たち抜きに、私たちのことを決めないで)

ぶんせき かじわらふみ お
(文責 梶原文雄)

イベント報告



リズムにあわせて2019



2月1日(土)らいとぴあ21の3階ホールにて、毎年恒例のダンスパーティーを開催しました。障害のある人もない人も一緒に楽しもうというコンセプトのもと、毎年開催しています。例年は11月の第2土曜日ですが、今年は年が明けてからの開催となりました。外は寒くても、みんな踊っているうちに汗だくです。出演者もお客さんも一緒に楽しんだ様子をご覧ください。



カエルのうた



そ 其の27～ むかし 昔のことを思い出して おも だ

私が住み始めた頃の箕面市は、もっと緑が豊かで自然にあふれていた。駅周辺を馬車が通っていたような時代だった(若い人は信じてくれないかも)。箕面の滝に向かう道には、もみじの天ぷらや土産物を販売しているお店が立ち並んでいた。そのお店に山で見つけたカブトムシやクワガタムシを持ち込むと、買い取ってくれたので私には良いアルバイトになっていた。滝道を登って行くとサルたちがそこら中走り回っていて、目をあわすと襲い掛かって来るので極力見ないようにしていたのを覚えている。社会福祉協議会の職員から頼まれてサル追いのアルバイトをしていたこともある。サルたちが集まっている所に投げ玉(壁にぶつけると破裂する花火の一種)を投げつけて追い払う。いつからかサルたちを見かけることが無くなったが、サルたちはどこへ行ってしまったんだろう。

新聞配達のアバイトをしていたこともある。台風の日に配っていた時のこと。風雨が激しく自転車で配達する私に襲い掛かってきた。それでもめげずに配っていたが、ポストに新聞を入れようと自転車を離れた途端、強風に吹かれて自転車が倒れてしまった。新聞は道路に落ちてびしょびしょで使い物にならないから、店舗に交換するために戻ると店舗はすでに閉まっていた誰もおらず、仕方なく落ち込みながら家に帰ったのを覚えている(大人たちはどうしたんだろう)。

車の運転免許を取ると、50 cc のバイクにも乗ることが出来る。今はバイクに乗る場合ヘルメットは被らないといけませんが、その頃は 50 cc のバイクであれば被らなくても良かった。今考えると恐ろしい時代だ。道路の左端の 1 メートルほどの車との隙間を走るのだから命がけだ。今は障害で乗れないが、もし乗れたとしても恐ろしくて乗ることはないだろう。

私が免許を取った頃、360 cc の軽自動車があった。そのことを年下の同僚に話すとまったく信じてもらえなかった。年上の同僚に確認すると「あったあった」と証明してくれたのでようやく信じてもらえた。しかし今思えば昔、身の回りには危険な物があふれていたと気付かされることが多い。360 cc の軽自動車など車体が軽いから、大型車が横を通ると大きく風にあおられてしまうから恐ろしい。よく今まで無事だったことだ。

(武藤芳和)

わたし ちいき かつどう
★ 私たちは地域でこんな活動をしています ★

はけんじぎょう
ヘルパー派遣事業



ちいき ぐ
地域で暮らす
しょうがい かに
障害のある方に
ざいたくしえん
在宅支援や
ガイド支援を
おこな
行っています。

ちいきこうりゅう じぎょう
地域交流センター事業



ほうかくごとう
放課後等デイサービス
「さんかくひろば」の
うんえい とう
運営を通じて、ちいき
皆さんとの交流を図
ります。

じぎょう
グループホーム事業



じしゅせい たいせつ
自主性を大切に、
さまざま てだす
様々な手助けを
おこな ちいき
行いながら地域
せいかつ しえん
生活を支援してい
ます。

そうだんし えんじぎょう
相談支援事業



せいかつ なか
生活の中でのさまざ
まな こま
困りごとについ
てお話を伺い、
はなし うかが
必要な情報をお伝
えしていきます。

かいいんぼしゅう
会員募集

すいしんきょう こんご しょうがい かがた ぐ しゃかい む かつどう つづ
推進協は、今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりに向けた活動を続けていき
ます。

ほうじん りねん かつどうほうしん さんどう かがた ひ つづ ぼしゅう
そんな法人の理念、活動方針にご賛同いただける方を引き続き募集いたします。

ねんかいひ
年会費

だんたいかいいん
団体会員

くち えん
: 1口 10,000円

こじんせいかいいん
個人正会員

くち えん
: 1口 2,000円

こじんさんじょかいいん
個人賛助会員

くち えん
: 1口 1,000円

■ お問い合わせは(072)723-3342 (担当:岡部)

とうほうじん あんない **■当法人のご案内■**

ご相談、ご依頼は下記事務所へお問い合わせください。



【編集後記】

真冬のこの時期、しかしながら今年は記録的な暖冬で「凍えるような日」が少ないですね。暖かくて
 過ごしやすいのは確かですが、その一方でこれも「地球温暖化」のなせる業かと思うと心配の種が増
 えます。加えて、2月現在世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルス問題(現在終息の気配な
 し、移動制限も増加の一途)。「地球滅亡まであと〇〇日」という有名アニメのセリフが頭をよぎりま
 す。生活スタイルの全般的見直しを含め、有効手立てを考えなくては(球春到来)。

編集人／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面4丁目8番30号 電話072-723-3342 FAX072-723-6506

E-mail: JDW07270@nifty.com 郵便振替: 00990-4-116066 公式HP: http://www.suiskinkyo.com

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

一九九一年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価百円